リーディングDXスクール事業 【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容④】 ・教員がいつでも学び、授業実践に対して意見共有できるための工夫

（１）良かった点 ①　個別最適な学びと協働的な学びの実施　②　自由進度（生徒に任せる）の学びの実施
③　探究につながる新たな問いを生徒につくらせる　④　授業者が新たな一歩を踏み出す
※　これらが、生徒の主体的な学びや本質的な学びにつながっているか　（視点番号①～④で記入）

①生徒一人ひとりが授業に取り組む姿勢が見られた。
①最後のアウトプットで、あまり書けていない子も自分の言葉で伝えることができていた。
①ノーマルモードとハードモードのレベルに分けた学習の進め方。↓へ
①テンポが速い中でも、チャットやジャムボードなどの使い分けをきちんとしていた。
②自分でゴールを設定し、評価。Sを目指しつつAに止まっていた生徒や、その逆など様々いたのもよい
②自分で調べ、整理し、共有してより深められる学びがよかった。
②チャットに情報を集めることで、瞬時に集め、いつでも確認することができた。
③視点を挙げ、個別、複数で取り組ませ、途中に各視点の共有もしていく。PR文を書かせ、それをまた立ち歩きで交流する。１時間の間でテンポよく展開されていた。
③最後のふりかえりでアジアの他の国との違いに注目させた（ふりかえりの共有で他者参照）
④チャットの活用

（２）課題点　（視点番号①～④で記入）

・全体のまとめをどうされているのか。→クロームブックを活用することで、成績は上がったのかが気になった。
・情報処理できる生徒はどんどん進めていき、深い学びができていたが、そうでない生徒は、複数での話し合いにも参加できずに立ち止まっていたように思う。→教師がペアを組ませることをしていたので良かった。
・チャットのテンポが速すぎて生徒は追えていない？生徒個人では追っているのか？
・情報収集の視点と整理・分析の視点が同じ？人口が多いことを豊富な労働力と捉えるか、維持の難しさと捉えるかなど、集めた無機質な情報に価値をつけるのが整理・分析（多面的な収集と多角的な分析）

現職教育用のクラスルームを作成し、活用している。そこには、現職教育で使用する資料や年に３回実施している校内授業研究会のための指導案や資料を掲載している。

また、授業後の反省については、事前にグループ単位でスライドを共有し、いつでも入力できる状態にしている。そのため、協議会の折には、個々が考える授業の良かった点や課題点を明確化した状態でスタートできるため、的を絞った議論をすることができる。また、他のグループのスライドも見ることもできるため様々な考えに触れることもできるようになった。